

第6回 宇治西小倉学園 開校準備委員会 会議録

日 時 令和7年3月5日（水） 19時00分

場 所 宇治市立西小倉小学校 ランチルーム

会 議 日 程

1. 開会
2. 報告事項
 - ・ 宇治市における小中一貫教育の展開
 - ・ 制服についてのアンケート結果
 - ・ 開校準備委員会について
3. 専門部会の取組状況について
 - ・ 制服部会
 - ・ 校歌・校章部会
 - ・ こども見守り部会
4. 専門部会毎の協議
(専門部会毎に分かれる)
5. その他
 - ・ 次回日程について
6. 閉会

開 会 (19時00分)

1. 開会

杉本委員長が開会挨拶をした。

文科省主催の「コミュニティ・スクール制度化20周年記念フォーラム」を拝聴して、今われわれが開校準備をしている施設一体型小中一貫校は、コミュニティ・スクールとして、未来の民主主義社会構築のために、子どもたちの生きる力（非認知能力）を育むことが必要だと、改めて思いを強くしました。（杉本委員長）

2. 報告事項

・宇治市における小中一貫教育の展開

学校教育課 葛山総括指導主事が『宇治市における小中一貫教育の展開』について説明した。

《質疑・応答》

委員：施設一体型小中一貫校の事例は宇治黄檗学園のことか。

葛山総括：そのとおり。

委員：施設一体型になった成果はあるか？

葛山総括：系統的・継続的な学習指導、生徒指導がよりやりやすくなったといえる。また、児童生徒にとっても中学校への進学に対する不安が少なくなり、入学当初から落ち着いて中学校生活が始められていた。

委員：いろいろな場面で同じ質問するが、いつもそうした回答で、小中一貫校の優位性が不明確だ。宇治市が小中一貫校にこだわっている理由が分からない。もっと具体的なデータに基づいた成果を示してもらえるように願います。

委員：宇治市の小中一貫教育の成果は、何となく理解することはできる。では、宇治市としては、これからの市の小中一貫教育の課題は何だと考えているか？

葛山総括：成果として「自分の考えをきちんと表現できる。他人に伝えられるようになってきている。」とお話してきているところであり、それは確かに伸びているところ、成果として捉えられるところではある。しかし、「もう十分(身につけられた)か？」というところではない。そうした力をもっと、伸ばしていくためにどうするか？全ての子どもたちが生き生きと自分の思いや考えを表現できるようにするためにはどうすればよいかというような、「さらに上へ」の課題がある。

また、保護者等の方々から、「小学校から中学校への『なだらかな接続』はよいが、子どもたちはその先に高校や大学、社会へと進んでいく。その際には決して『なだらかな(接続)』といったことにはならないが、大丈夫なのか？」といった不安・ご心配の声を聞くことがよくある。おっしゃることは良く分かるし、ご心配な気持ちも良く理解できる。そうしたことを踏まえると、子どもたちには『なだらかさ』を感じさせつつ、同時に人生の節目やその時々々の自覚をしっかりと持たせていく、感じ取らせていくといったことも、課題になるかもしれない。

委員：宇治市が考える「学力」とは？

葛山総括：物事を記憶したり、授業やテストの問題を解いたりする力は、確かに「学力」の一部分ではあると考えている。しかし、それが全てではないとも考えている。先ほど、探究的な学習についてお話したが、これからの時代には「自ら課題を設定し、その課題に向かって自ら進んで取り組んでいく。試行錯誤をしながら課題を解決していく。」そういった力が大切だと考えている。

委員：施設一体型になると、チャイムが二つあったり、(小学生にとっては)同じ校舎内に大きな中学生がいたり、(中学生にとっては)逆に小さな子どもがいたりなど、子どもたちにとってはいろいろな戸惑いがあると思うが、そうした「戸惑いは慣れていくしかない」ということで、そのまま慣れていくことを待っていたのか？何か働きかけがあったのか？どうだろう？

葛山総括：施設一体型のメリットを生かした取組を通して、(施設一体型であることを)理解しながら、感じ取れるようにしていた。

委員：具体的な取組や事例はあるか？

葛山総括：具体的な例としては、9年生(中学3年生)が1年生の手を引いて校舎を案内するなどの取組があり、教職員に対して、それぞれの取組の意義やねらいをしっかりとふまえて、児童生徒に指導していく、意義やねらいを伝えていくようにはしていた。

委員：小中一貫校になり前期・中期・後期という枠組みになるようだが、特に中期は小学生と中学生が入り混じる「期」ということになる。それは、中学校の先生が小学校で教えたり、小学校の先生が中学校で教えたりするということ、そうしたことは可能(免許等を含め)なのか？また、これまでと違い小中一貫校という新しい学校になるのだが、先生の数(定数)が増えたり、特別に配置される加配と呼ばれる先生が配置されたりすることはあるのか？

葛山総括：教職員の配置については、詳しく承知していない点もあり、お答えできないことをご理解いただきたい。授業については、中学校の先生が小学校で教えることはよくある。小学校の先生が中学校で教えるということの事例はあまりない。小学校免許や中学校免許を持っている、持っていないということがあるので、単独では難しいこともある。小学校の教員と中学校の教員と一緒に指導することは実際によくある。

・制服についてのアンケート結果

齋藤校長が『制服についてのアンケート結果』について説明した。

3. 専門部会の取組状況について

小川副部会長が、校歌・校章部会の取組状況について説明した。

松村委員が門脇部会長の指名により、こども見守り部会の取組状況について説明した。

4. 専門部会毎の協議 (専門部会毎に分かれる)

《専門部会ごとの協議(30分)》

5. その他 次回日程について

4月中旬から5月上旬まで日程調整を行う。

・開校準備委員会について

坂上総括指導主事が『開校準備委員会』について説明した。

6. 閉会

杉本委員長が閉会のあいさつをした。

これからの「体験学習」は「経験学習」に転換することが望まれます。例えば、米づくりは単なる田植えや稲刈りという「体験」ではなく、お米をつくるプロセスの中で、工夫したり、挑戦する「経験」を通して、物語が生まれ、米づくりの意味を理解できるのです。(杉本委員長)

閉 会 (21時05分)